



社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・今後施設・設備の経年劣化への対応や長寿命化対策が必要である。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	・図書館サービスが円滑に実施されるために必要不可欠な業務である。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	・様々な観点で施設の維持管理を行い、利用者が快適に、また安心安全な利用ができるよう維持運営されている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	・施設・設備の維持管理や日常的な清掃業務・定期的な清掃業務など業務委託により実施しているが、長期・集約契約等により費用の軽減化を図っている。 ・書架周り等の日常清掃は職員により実施している。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点) 施設の維持管理は、利用者が快適に安全に使えるよう、また図書館サービスを支える上で不可欠な事業であり、効率的な運用も図っている。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服するべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 <input checked="" type="checkbox"/> 影響は大きく、問題の発生が予想される <input type="checkbox"/> 代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館サービス事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない <input type="checkbox"/> 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> <input type="checkbox"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 ・図書館は、市民の生涯学習の拠点であり、市民生活に不可欠な施設になっている。
	資源配分	現状維持	

実施計画・事務事業評価共通調書

記入日	平成27年3月27日
所属部課名	教育委員会 笠間図書館

【PLAN】事務事業の計画 事務事業番号 2

事務事業名	笠間図書館サービス事業		評価区分	事務事業性質	政策的事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁	
	評価事業		重要事務事業	総合計画実施計画	○	健康都市づくり		市単独	補助率
総合計画体系	政策	5人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり【教育・文化】	新規・継続	継続			補助率		
	小政策	2だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります	開始年度	終了年度					
	施策	1生涯学習	H16年(2004)	単年度繰り返し	共催者・関係団体				
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画			
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館標準的の事業	根拠法令	図書館法		
						実施手法	補助金の有無	負担金の有無	

1【事務事業の全体概要及び背景】	2【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】	3【年度目標】	4【事業費の内容(決算額)】
<p>・図書館サービス事業は、市民の生活に必要な様々な資料・各種講座の提供やギャラリーを利用した情報の発信等広い分野において市民が求める情報を提供し、市民の教養・調査研究・レクリエーション等に資する事業である。</p> <p>・「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)の成立により、本市でも平成20年3月「笠間市子ども読書活動推進計画」が策定され、「市立図書館の整備」や「市立図書館と学校図書館の連携・協力」等が方策としてあげられている。</p>	<p>・図書館資料の収集(選定・発注・受入等)、提供(貸出・相互貸借等)</p> <p>・図書館資料管理(整理・配架、修理、延滞督促等)</p> <p>・各種の学習情報・機会の提供、地域情報の提供</p> <p>・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する</p> <p>・図書館1年生事業・子ども読書フェスティバルの開催</p>	<p>・資料・情報の提供</p> <p>・子どもの読書活動の推進</p>	<p>・報酬36千円 ・報償費10千円 ・旅費2千円 ・消耗品費3,290千円 ・食料費9千円 ・印刷製本費119千円 ・通信運搬費22千円 ・傷害保険料16千円 ・委託料2,301千円 ・使用料賃借料4,335千円 ・備品費12,398千円 ・負担金61千円</p>
	H27事業計画		H29事業計画

5 事務事業の目的と手段			単位
目的	①対象(働きかける相手・もの)	利用者・市民	笠間地区の市民
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか、どうい状態にしたいのか)	<p>・市民生活の質を高め、豊かで安心できるものとなるような学習機会・情報が得られる。</p> <p>・市民・利用者からの資料案内・調査(レファレンス)に的確に応える。</p>	<p>④対象指標</p> <p>⑤成果指標</p> <p>⑥活動指標</p>
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)	<p>・利用者の要望に応じた、様々な観点で資料・情報・学習機会を提供する。</p> <p>・様々なテーマに基づき、レファレンス事例の保存活用を図る。</p> <p>・図書館資料を充実し、確保する。</p>	<p>入館者数</p> <p>資料貸出冊・点数</p> <p>おはなし会・読書フェスティバル参加者</p> <p>開館日数</p> <p>開館時間</p> <p>資料購入点数</p> <p>おはなし会・読書フェスティバル開催日</p>

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																
事業費		単位	23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(計画)		28年度(計画)		29年度(計画)	
投入コスト(インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円												
			県支出金	千円												
			地方債	千円												
			その他	千円												
			一般財源	千円	25,213	22,126	20,231	22,599	22,693	22,757	22,693					
事業費計(ア)		千円	25,213	22,126	20,231	22,599	22,693	22,757	22,693							
人件費	人員	職員割合	人 千円	3.40 25,500	3.40 25,500	3.10 23,250	3.775 28,313	3.775 28,313	3.775 28,313	3.775 28,313						
		時間外	千円	729	377	432	221	542	542	542						
		嘱託臨時	千円	11,657	14,127	14,679	17,062	17,380	17,380	17,380						
		他課の協力分	千円													
		人件費計(イ)	千円	37,886	40,004	38,361	45,596	46,235	46,235	46,235						
トータルコスト(ア)+(イ)		千円	63,099	62,130	58,592	68,195	68,928	68,992	68,928							
指標区分		単位	23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)	
活動指標	開館日数	日	291	296	292	296	298	298	298							
	開館時間	時間	2,776	2,950	2,915	2,955	2,975	2,975	2,975							
	資料購入点数	点	7,016	6,350	5,466	6,830	6,830	6,830	6,830							
	おはなし会・読書フェスティバル開催日数	日	77	88	76	80	80	80	80							
対象指標	笠間地区の市民	人	28,019	27,293	27,365	27,026	27,000	27,000	27,000							
成果指標	入館者数	人	256,226	230,617	273,543	269,240	280,000	280,000	280,000							
	資料貸出冊・点数	冊・点	572,460	537,351	493,377	570,000	570,000	570,000	570,000							
	おはなし会・読書フェスティバル参加者	人	1,667	1,389	1,190	950	1,500	1,500	1,500							

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・図書館資料や各種の情報・機会提供について様々な観点での要望があり、提供できる環境整備が必要である。 ・子ども読書活動推進については、現行事業の継続と学校図書館との連携・協力等が方策としてあげられている。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	・図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と連携して、市民の生涯学習の場を提供している。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	・図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいており、図書館資料は学習資源として活用され、市民の生涯学習を支援し、多くの利用が示すとおり有効性は高く、利用も伸びている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	・資料の購入費は、最低限界値以下になっている。職員においても全職員の2/3を非常勤職員で対応し、コスト削減を図りながら、各種サービス・事業を各図書館の状況に応じて提供している。
	一次評価結果 必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り、反省点)  ・本事業は、図書館の根幹的事业であり、利用者が必要とする資料・情報の収集・提供等を行うことにより市民生活を支えている。	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策  影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館管理運営事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性(民間活動も含む)  他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/>  他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 笠間市の図書館は全国でも有数のサービス実績を上げており、市民は元より市外の多くの利用者からも頼られている。今後とも多くの利用者の要望に応え、各種の資料や情報を提供し、生涯学習の拠点として高い水準のサービスを提供することが必要である。
	資源配分	現状維持	





社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 ・今後施設・設備の経年劣化への対応や長寿命化対策が必要である。
--

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》 ②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	・図書館サービスが円滑に実施されるために必要不可欠な事業である。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》 ④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	<input checked="" type="checkbox"/> 向上の余地がない <input type="checkbox"/> 向上の余地がある	・様々な観点で施設の維持管理を行い、利用者が快適に、また安心安全な利用ができるよう維持運営されている。
有効性評価	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》 ⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	<input checked="" type="checkbox"/> 削減の余地がない <input type="checkbox"/> 削減の余地がある	・適切な契約の執行により、最小限の決算に努めている。
	一次評価結果	必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地がある	全体総括(振り返り, 反省点) 利用者に安心安全、そして快適な図書館利用を提供するためには、必要不可欠な事業である。

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策 影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる ・図書館サービス事業と一体的に行うことが必要不可欠な事業である。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性 (民間活動も含む) 他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名) 名称 <input type="text"/> 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 ・図書館は、市民の生涯学習の拠点であり、市民生活に不可欠な施設になっている。
	資源配分	現状維持	